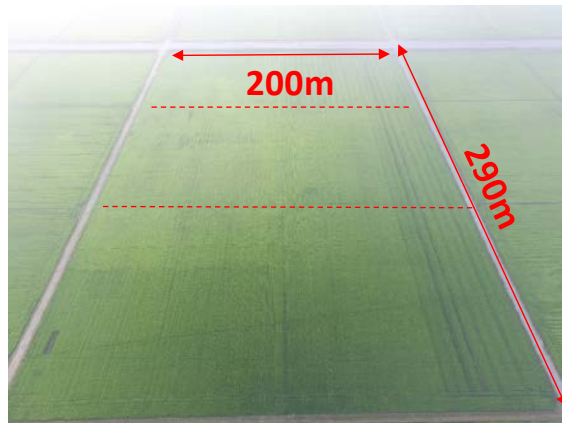


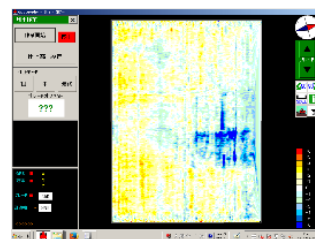
5.8ha巨大区画圃場における プラウ耕乾田直播栽培

技術の概要

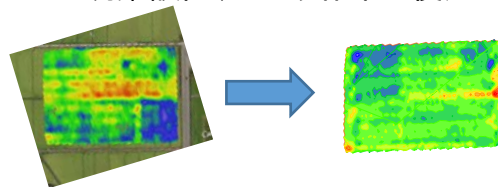
- ・プラウ耕乾田直播は、5.8ha圃場においても実施可能であり、現地実証試験ではおよそ9俵の収量が得られています。
- ・宮城県で整備が進められている2ha標準区画では、道路に囲まれた圃場の高さが同一となっており、畦畔の設置・取り外しにより1ha～6ha程度まで縮小、拡大が可能です。
- ・3haを超えるような巨大な圃場においては、長辺短辺が長くなるため、①均平精度を高めること、圃場内に明渠を掘削すること、が用排水の操作面で効果的であり、②直進作業性の面ではガイダンスシステムの利用が有効です。
- ・圃場内で土壌の性質が異なる場合は、地力の差に応じた可変施肥を行うことにより、生育の均一化を図ることが可能となります。



5.8ha圃場 点線の位置の畦畔を撤去



高低差マップ
明渠設置、レベラ作業に使用



前年度の生育(左)に応じた可変施肥の結果(右) (赤色:生育量多、青色:生育量少)

期待される効果

- ・圃場を6ha程度まで拡張して乾田直播栽培を行うことによって、10aあたりの労働時間は、従来の標準区画における水稲栽培に比べ67%削減されます(15.15h→4.95h)。
- ・主な削減要因には、長辺長の増大による作業時の旋回数の減少や、畦畔や排水路面積の縮小による、草刈り面積の減少が含まれています。

【お問い合わせ先】

農研機構東北農業研究センター

企画部産学連携室 広報チーム 電話：019-643-3414